

0 理念

2005年度以降に設定した目標

飛び級制度を活用した学部・研究科の連携教育をはかる。

進捗状況報告

前期課程において2006年度から Semester 制を導入し、演習科目等を除き、ほとんどすべての科目を Semester 開講とした。科目内容が細分化され、科目の意図と学部科目との差異が明確になった。
学部・研究科連携については、カリキュラム体系を検討中である。

学内第三者評価

2005年度の「改善の具体的方策」で記されている「『専門学識コース』の教育内容の充実」や「アドバイザー・パネルの活用」について具体的な記述が望まれる。

また、2005年度に設置された「研究職コース」「専門学識コース」のうち、「専門学識コース」は2006年度に修了者をすでに出しており、2005年度の自己点検・評価の（現状の説明）で記しているような具体的な人材育成の目標がどの程度実現しているかを検証することが求められる。

（また、大学院設置基準の改正に伴い、コースごとに人材育成の目標を設定し、それをホームページで公表していることについて記述しておく必要がある。）

文部科学省は、中央教育審議会が2005年度に出した答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」を受けて、2006年度に大学院教育振興施策要綱を出し、5年間程度の体系的・集中的な取組みを策定している。これは大きくは①大学院教育の実質化：教育の課程の組織的展開の強化②国際的な通用性、信頼性の向上の2本柱となっている。これらの内容を把握したうえで研究科の理念・目的・教育目標について検証されることが望ましい。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- 進捗報告は多くの困難に直面しているのか目的に定めるものとなっていない。
- 基本的問題は、専門職業人の養成を目標の一つとしながら、経営戦略研究科とのすみ分けが解決されていないことと思われる。
- アドバイザリー・パネルの積極的活用により新しい展開が期待される。